

研究会名： 東日本高等学校土木教育研究会

会長挨拶

東日本大震災以降、土木分野での人材育成が再び注目され始めています。人材は国の根幹とも言われています。土木技術者としての人材育成が、高校土木教育の使命でもあり責務であると思います。そのことが持続可能な社会実現に必要な人材の育成につながっていきます。先生方がその役割の大切さを理解し、意欲的に生徒の指導にあたっていただくことをご期待申し上げます。

研究発表

(1)「地域貢献事業の取り組み」

長野県丸子修学館高等学校 鈴木 文明

地域に根ざした学校として、より地域と密着していくことを考えての事業・活動も10年以上が過ぎ、バス停待合室建設工事や高齢者福祉施設の整備事業、また河川整備作業など地元地域や企業・団体から様々な要請を受けて行うという事実は、実習をする生徒にとってもやりがいや責任を感じさせるものである。また社会の一端に触れることで、教師以外の大人とのコミュニケーションを図る機会を得ることができる。

(2)「地域との連携による環境教育活動」

北海道帯広工業高等学校 齊藤 裕樹

事業の主な概要

- ・学校周辺の環境美化活動
- ・機関庫の川の特定外来生物の防除活動
- ・十勝川中流部川づくり事業
- ・近隣の小中学校などと連携して、十勝の自然環境を生かした出前授業の実施
- ・外部講師を招いての自然環境に関する講義

生徒自ら考えたアイデアが実現可能なものであれば学習の意欲向上につながることで生徒の感想からわかった。また、官公庁の土木事業の

一部分を担うことが出来たという達成感は生徒の進路意識の向上につながると感じた。

(3)「岐阜県の土木教育の現状と建設系企業が求める人材」

岐阜県立可児工業高等学校 西村 賢

本研究から、従来通りの土木教育だけではなく、社会や建設業界の情勢の変化や技術の変化に対応のできる教育を施す必要がある。その中で以下の3点に関して留意する必要があると考える。

- ①建設業の社会貢献度の高さや、規模の大きな仕事である等、建設業に対する関心を高める。
- ②建設業界と連携し、生徒に有益なイベントを多く行うことで、生徒の職業観を高める。
- ③教科指導に関して、実際に現場で役立つ「測量技術・施工知識・製図CAD」を身に付けられるように教材研究を行う。

(4)「高校生ものづくりコンテスト(測量部門)の現状と課題」

東京都立田無工業高等学校 東 君康

現在の地区大会では、実行委員会が実施内容の確認と実施要項作成をおこなっている。大会における全権を担い、ルールの詳細を含めて責務は重い。しかし、全国大会では、各地区大会で決められた細かなルールや状況と必ずしも合致せず、ときには事前説明会で解釈の違いや要項に記載されていないという理由で、自己判断をされて問題になったケースも見られた。今後は、専門家(例えば測量設計業協会)の意見も取り入れ、検討委員会を全工協や全国高等学校土木教育研究会内に設け、今後の競技内容の検討や全国統一ルールも含めた組織構築が求められるのではないだろうか。いずれにせよ、数年後に向けた新しい企画や内容検討を今からおこなう必要がある。